



“東北農食産学連携ネットワーク” 第37号をお届けします。

第37号では、東北ハイテク研セミナー「岩手の薬草作物栽培の今とこれから」および岩手薬草生産組合主催の現地研修会について報告します。(1.7.31 於：岩手県岩手町、参加者28名)

## 開催目的

漢方製剤の原料である薬用作物は、主要生産国の中国での需要の高まりもあり、輸出制限、価格高騰の動きがみられる。生薬の安定生産・供給体制を確保するためにも、国内生産への期待が高まっている。しかし、薬用作物は普通作物と比べ、栽培法が確立しているとは言い難く、品種や農薬、農業機械などの開発整備も遅れている。

そこで、品目によっては価格保証制度があり、農業経営としても成立しうる環境が整備されていることから、セミナーを開催し、生産振興に資するための情報交換を行う。

## プログラム

テーマ：東北ハイテク研セミナーおよび岩手薬草生産組合の現地研修会

### <講演・話題提供>

#### 第1部 セミナー

##### 1) 岩手町における薬用作物のビジネスモデル

..... 岩手薬草生産組合

##### 2) 薬用作物の栽培に取り組んで

..... 薬用作物生産者

#### 第2部 薬用作物の主要病害とその診断・防除の現地研修会

主 催：農事組合法人岩手薬草生産組合、共催：東北ハイテク研究会

##### 1) 講演会：薬用作物の主要病害とその診断・防除

..... 新潟食料農業大学 佐藤豊三 教授

##### 2) 圃場研修

## <講演内容>

### 第1部 セミナー

講演1では、国産薬用作物への高いニーズに  
応えるために、岩手薬草生産組合伊藤部長から  
、「薬用作物栽培の手引き」に沿って概要を説明  
していただいた。その後、現在の取り組みやビ  
ジネスモデルの紹介をしていただいた。作目の  
特徴を理解した上で、基本技術を励行すること  
の重要性を学んだ。



岩手薬草生産組合伊藤部長の生産概要説明

講演2では、生産者からの取り組み状況を発  
表していただいた。各自のこれまでの取り組み  
で、除草の難しさ、連作による生育不良、ハリ  
ガネムシによる食害、秋のシャクヤク定植で雪  
不足で凍上による球根の持ちあがりでの生育停  
滞、鹿の食害などが報告され、熱心に知恵を出  
し合った。



生産者の取り組みの紹介と質疑応答

### 第2部 薬用作物の主要病害とその診断・防除

1) 講演会では、佐藤豊三教授から、主な薬  
用作物に見られる病害の諸症状について、豊富  
なスライドにより、紹介していただいた。研究  
途上の未発表データや同定中の病害の症状の写  
真もあり、写真撮影が許可されないスライドも  
含まれていました。病害の中には、対策が確立  
されていないものもあり、活発な質疑応答は、  
現地研修の場に持ち越されました。

2) 圃場研修では、本セミナーに参加した  
生産者のシャクヤク、シソ、トリカブトの圃  
場で、病害の発生状況を確認し、最新の対策  
が紹介された。



佐藤教授によるうどんこ病の対策の説明